

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学文学部2年 野村美空

2018年3月11日から24日にかけて私は浙江大学スプリングスクールに参加しました。二週間大学の国際教育棟の寮に滞在して、他の国から来た留学生とともに初級中国語の授業を受けました。また授業後の午後には浙江大学の学生ボランティアと一緒に杭州の観光や、さまざまなアクティビティを行いました。週末には上海、蘇州まで遠出して京大の他の参加者とともに観光しに行きました。今回の短期留学では多くのことが得られました。第一に、今回の滞中で語学へのモチベーションに変化が見られました。私は京大で中国語を初級・中級と二年間勉強しましたが、必要性にかられずに特に二年目はあまり真面目に勉強していませんでした。今回、中国に行き実際に二週間の生活を通して、また中国語を自分より話せるほかの参加者を見て、身をもって必要性を感じました。自分も話せるようになりたいと強く思うとともに、今までの自分の不真面目さとその結果としての現状にもどかしくなりました。去年行けば、二回生もっと真面目に勉強したのに…と悔しい気持ちになりました。次の年度ではもう中国語の授業はなくなってしまうですが、自主的に勉強したり、中国の留学生もっと交流を持ったりして、中国語の勉強はこれきりにしないようにしたいと思います。それに付随して言うと、今回期待したほど中国語運用能力は上がりませんでした。中国語を聞き取るのは思ったよりも困難でした。お店の人やバスの中で話しているような日常会話の中国語は全然聞き取れなくて、質問されても何を聞かれているのかいくら聞いても分からなくてそもそも返事ができないという場面に常々悩まされました。語学に関しては話すことよりも、まず自分はリスニング力を伸ばす必要性を感じました。聞き取りに関しては自分の事前勉強不足であったことに反省しています。今後の語学の課題としてはリスニング力を重点的に鍛えながら同時に会話力を伸ばしたいと思いました。次に、現在のリアルな中国の発展と生活、文化を体験することができました。私は高校2年の時に修学旅行で北京と西安に行きました。その時に感じた中国の印象とまるで違いました。杭州や上海と、北方の北京、西安とは地理的に離れているので違うのも無理はないのですが、圧倒的に経済、技術などが発展していると思いました。まず事前に聞いてはいたものの、杭州での買い物の支払はほぼ電子化されていて、学生でさえ現金を基本的に持ち歩いていませんでした。寮の洗濯機ですらスマホでWECHAT PAYを使って支払う方法だけになっていました。中国に口座がない私たちにとっては少々使いにくかったけれども、生活している人々にとってはなんて便利で効率的なシステムだろうと感心しました。また街中もかつて北京にいったときよりも整然としていて治安もよかったです。杭州はとても発展していて人々の住みやすい都市であると感じました。そこで寮住まいをする浙江大学の学生がのびのび生活をしている姿を見て、私の中国のイメージというのはさらに良いほうに変化しました。この中国の発展を肌で感じる機会はとても貴重な体験になりました。最後に、この研修で得られた最大の事柄はさまざまな人との出会いでした。今回、10人前後の浙江大学の学生ボランティアの方々が私たちを午後の観光やアクティビティに連れて行ってくれました。そこで私たちはお互いの話をしたり、自由時間も一緒にスポーツや遊びをしたりして多くの交流をしました。私たちと年の近いボランティアの人との交流は、今の中国の学生のリアルな生活や考え方に触れるととてもいい機会になりました。また今回このプログラムの参加者は学年も専攻も違う13人の京大生でした。また同じプログラムで東大生と静岡県立大生もほぼ同日程で浙江大学に来ていました。彼らとは一緒に観光やアクティビティに回ったりイベントに参加したりして一番長い時間過ごしました。その中には興味深い人が沢山いて、彼らの今頑張っていることや今までの体験、将来の目標などがさまざまに垣間見えてきて、私にとって大きな刺激となりました。彼らを見て自分の将来や学業に対する自分の姿勢を見直すことができました。このプログラムに参加しなければ会うことのなかったであろう人々との関係はこれからも大切にしていきたいと思います。このような面白い出会いや文化交流を今後もっとしてみたいと思いました。これからは積極的にこのようなプログラムなどがあればまた参加したいです。